

世界のニーズに応える、草刈機がある

さまざまな国と地域で、健やかな食と緑あふれる環境が育まれるように。
自然の力を引き出す草刈機が、世界の安全・安心な農業と緑化を創り出します。



Europe
ヨーロッパ

欧州3大農業国において 今までできなかった草刈りを提供

EUにおける農業生産額が1位のフランス（18.1%）、2位のドイツ（13.4%）、3位のイタリア（12.3%）にて、狭い場所、人力で刈っていた場所など、ニッチなニーズに応える草刈機メーカーとして存在感を高めています。近年は東欧での営業活動をスタートしました。

◎ぶどう畑

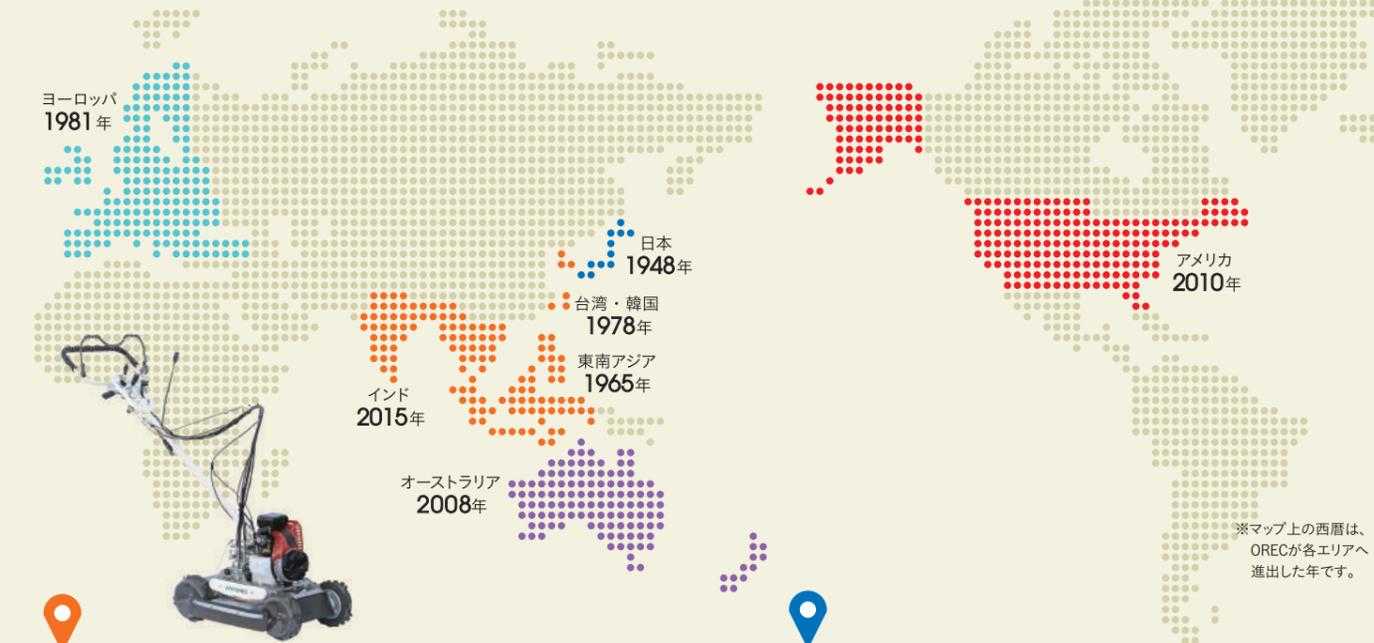
ぶどうの棚間が狭い場所でも隅々まで草を刈れる、乗用タイプ草刈機が好評。シャンパーニュの畑では、現地の声から生まれたさらに狭い幅のマシンが活躍中です。

◎もみの木植林

1~2m高のクリスマスツリー用もみの木の間を幅の狭い乗用タイプ草刈機が除草。人力作業での労力と危険性を軽減しています。

◎オリーブ畑

イタリアでは、名産であるオリーブの下草刈りに活躍。ほかにもりんご畑など、果樹園からのニーズがあります。



Asia
アジア

Japan
日本

日本と似通った農業形態のため 経済発展にともない需要が高まる

韓国・台湾をメインに、タイ、マレーシアなどのASEAN諸国との取引があります。韓国・台湾においては除草剤の軽減への取り組みも始まり、今後草刈機への需要が伸びると見込んでいます。また2015年にはインドとの取引もスタートさせました。

◎公有地

土地の管理業者への納品が主流です。

◎果樹園

マンゴー、グアバなど比較的高級な南国フルーツの果樹園で使用されています。台湾では柚子農園でも活躍中。

Oceania
オセアニア

広大な土地の草刈りをサポートし、 山火事発生の要因を取り除く

オセアニアは乾燥しており、山火事が起きやすい地域。OREC製品がハイウェイ脇の空き地やグラウンドなどの枯れ草刈りを行うことで、山火事の防止に役立っています。

America
アメリカ

広大な公園や庭園で活躍中 オーガニック農家からのニーズもあり

現在、アメリカでは、機械レンタル業者や造園業者からのニーズが主流です。その一方でオーガニック農業が盛んな国でもあるため、今後は除草剤などに頼らず、無農薬有機栽培に取り組む小規模農家などからのニーズを開拓していきます。

◎草原・茂み

雨量のある地域には、背の高い草や低木などが生い茂る茂みがあります。今まで手付かずだった茂みを整備するために、小型で一般の人にも操作できるオーレック製品が求められています。

◎造園

造園が盛んなアメリカ。プロの造園業者から雑草刈機として高い評価を得ています。今までになかったコンパクトさも魅力です。

◎公有地

広大な州立公園や市町村が所有する土地の管理にも使用され、環境整備に一役買っています。

北海道から沖縄まで全国を網羅し、 バラエティに富んだ作物へ対応

南北に長い各地の気候に差異があり、また四季もある日本では、多様なタイプの草刈機が活躍しています。下記のニーズに応える草刈機のほか、ごぼう、ねぎの栽培や茶畑専門として独自に開発された多機能管理機も製造しています。

◎水田

畦（あぜ）道の上面側面（2面）の草を同時に刈れる、畦草刈り専用マシンを開発。肩掛けタイプの刈払機と比べて、大幅に作業時間を短縮できるように。

◎果樹園

幹ぎりぎりまで草刈り可能な乗用タイプで下草刈りの負担を軽減。りんご、ぶどう、なしなどの果樹園で使用されています。

◎休耕地

ススキやセイタカアワダチソウなど、背の高い草も一気に刈れる性能が喜ばれています。

◎斜面

土手やのり面など傾斜状の土地でも安全かつスムーズな草刈りを実現。斜面専用の歩行タイプ草刈機が活躍しています。

急成長のオーガニック市場に OREC製品は求められています

2003年の欧州オーガニック農地面積は約630万haでした。そして約10年後の2012年には1,117万haと約2倍の面積となりました。今後もオーガニック市場は成長すると予測され、オーガニック農業を支える草刈機の需要も高まる見込みです。

【倍増するオーガニック農地面積】



関係性が深いのは オーガニック農業が盛んな国々

欧米のオーガニック市場は活発で、ごく普通のスーパーマーケットにも無農薬有機栽培の野菜が販売されています。ORECと関係性の深いフランス、ドイツにおいては特にオーガニック志向が強く、欧州オーガニック市場の売上額の約半数を両国で占めています。 ※2014年調べ 出典：The World of Organic Agriculture (FIBL&IFOAM)

【欧州のオーガニック市場占有率】

